

【取組の概要】

- 住民参加による「かのがわ古道」沿いにおける、原風景の再生と桃の花、菜の花、果樹園、文化財、水路景観等の資源を活かした安全安心で楽しめるまち（道）づくり
 - ◆住民主導によるまちづくりルールの作成、市による住民活動支援
 - ◆かのがわ古道沿道の修景整備、かのがわ古道の道路美装化、かのがわ広場の整備
 - ◆住民組織「かのがわ古道の会」の設立、まちづくりの推進 等

【体制】

- 山梨市
- 地域住民：山梨市駅南地域まちづくり促進協議会（2区まちづくりの会）
→下神内川まちづくりプロジェクト
→かのがわ古道の会
- 専門家：東京農業大学講師 藤巻眞史
山梨大学院教授 北村眞一
NPO 法人つなぐ理事長 山本育夫
建築家 米山照男



【取組内容】

■学習会・検討会・視察研修



■かのがわ広場、サイン整備



■自主的清掃活動



■地域の歴史を伝える冊子作成



■復元された川端（洗い場）と整備された石仏周辺



[1] 取組経緯

- 笛吹川から水を取り入れ、美しい流れをもっていた集落内をながれる「せぎ」（水路）は、都市化の中で汚染が進んだが、山梨市が下水道整備を進め、徐々に「せぎ」の水環境が改善した。
- 平成 17 年、下水道整備が進む中、さらなる水環境および地域環境の改善を目指し、山梨市下神内川 2 区の住民により活動を開始した。
- 同活動は、専門家の協力を得つつ、地域研究を行い、「せぎ」と道祖神等の石仏、果樹園が織りなす景観を組み合わせた総合的なまちづくりプランを市へ提案した。
- 平成 18 年、市は提案のあったプランの実現に向け、国の「まちづくり交付金」に申請、同事業の採択を受けた。一方、住民団体は「下神内川まちづくりプロジェクト」を発足し、「かのがわ古道・かのがわ広場」整備事業として、市と地域住民の協働により、「清流」復活を中心に各種事業を展開した。
- 現在は、整備事業は一段落し、地域住民にて日常管理・清掃が行われ、時代を担う地域の子供たちの積極的な参加を促すなど、ソフト面での取組みを展開している。

[2] 工夫した点

- 構想から完成に至るまで地域住民と市が緊密な協議を進めながら整備を行った官民協働の取り組みをしたことにより、地域の歴史・文化の再生、継承と生活基盤の向上とが調和した「活きた道」を構築した（石仏周辺の修景や川端などの水が留まる仕掛け、生物が棲める玉石積み水路、自然色の説明サイン、土のイメージを醸し出す舗装など）。
- 駅側から行った道の終りに、水車やビオトープ、休憩所のある「かのがわ広場」の設置により、憩いの場として、また地域住民の親水性の向上、地域の歴史に根差した水環境の復元を図った。

[3] 取組効果

- かのがわ古道では、狭隘道路の解消により、生活基盤が向上したことや既存の水路や石積みを活かして整備するなど、魅力的なまちづくりが進められつつある。
- 住民がまちづくりに主体的に参画するなど、住民活動が活発になり、地域の魅力を誇れる拠点的な空間が形成されている。
- 新しいまち歩きコースが設定され、多くの集客が生まれるとともに、山梨市が進めるフィールドミュージアム構想を具現化したものとして、市が掲げる政策の実現に大きく寄与している。
- 広場や水路の維持管理活動をとおして、水生する小動物や植物などが生育できる環境となった。
- 平成 22 年度第 3 回国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）の特別部門賞 受賞。
- 平成 22 年度山梨県まちづくり功労賞山梨県知事賞 受賞。

[4] 取組の今後の展開及び課題

- 《行政》・かのがわ古道での住民参画をモデルケースとして、市民と協働のまちづくりの推進。
- 遊歩道、水路、石積み等の日常的な維持・管理を行う一環としての、地域住民の自主的なコミュニティ活動の支援。
 - 地区内外の観光、農業、歴史・文化資源のネットワークの拡大（資源回遊ルート作り）。
- 《地域住民》・「かのがわ古道の会」の活動として、①かのがわの歴史、文化の伝承、②かのがわの自然環境の保護、育成、③かのがわ古道の案内と案内人養成を実施。

[5] 事業費、財源とした補助事業等

- 《寄付金》・2 区まちづくりの会 年間 50 千円（H18～H21）。・雑収入（寄付） 500 千円。
- 《国庫補助事業》・まちづくり交付金事業（市施行：かのがわ古道、広場整備） 251,587 千円（H18～H21）。・まちづくり交付金地域創造支援事業補助金（住民補助）年間 500 千円（H17～H21）。